

県道春野赤岡線

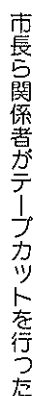
仁井田—十市間が開通

インに位置付けられています。完成のおかつきには、高知新港や十市パークタウンを控えて、生活道としてだけではなく、観光や地場産業に大きく貢献するものとして期待されています。また、高知市

から高知空港までの所要時間も大幅に短縮されます。同線は、すでに赤岡町から南国市浜改田までは

開通しており、今回の開通で八割以上が完成。浜改田——十市間も昭和六十三年度中には完成する予定で。

今回開通したのは、高知市との境から十市札幌までの約二二〇。幅員二二。の二車線道路で、昭和五十六年度に工事を開始。総事業費は約二十八億円。開通式では、小笠原市長ら十人がテープカットを行い、県警の音楽隊を先頭に、三代夫婦や出席者が峰寺トンネルを通過。抜けて開通を祝いました。



盛大に阿佐線の起工式



工事の無事を祈願してくわ入れ



三百人が出席して祝賀会（市民体育館）

高知県東部住民の悲願であった阿佐線の起工式が、三月二十九日に東崎の後免駅建設予定地で、県や県の関係者など約七十人が出席して行われました。

阿佐線は、南門市後免から徳島県牟岐に至る路線として計画されました。昭和四十年に安芸・田野間で工事を開始して以来、国鉄新線として建設工事が進められていましたが、昭和五十五年に国鉄再建法が施行されたため中断。国鉄としては工事再開が不可能となりました。このため、昭和六十一年に第三セクター土佐くろしお鉄道株式会社（中内力代表取締役社長）を設立、建設再開へ向けに働きかけを行ってきました。当初は後免―室戸間の予定でしたが、六十二年度工事再開にあたり後免―奈半

利用という条件が課せられ、六十二年九月に阿佐緒建設促進協議会はこれを受け入れることを了承しました。室戸までの延長については、法閉限の六十三年度内に工事を再開するために現在も県と協議会が国に働きかけを続けています。

後免、奈半利間は延長四三・一
、建設費は三百九十六億円で、
これまでにすでに百四億円を投入
しており、工事の進捗率は用地が
五八割、路盤が四五割で、残工事
費は二百九十二億円、七十一年十
月に開業の予定です。起点の後免
駅でJ・Rと接続、後免町駅や目章
駅など二十駅を設け、後免・安芸
間は快速七本、普通四十三本、安
芸・奈半利間は普通三十四本を運
行。所要時間は後免・奈半利間で
約一時間の予定です。県の中央地
域と東部地域を結ぶ基幹的な交通
機関として通勤、通学の生活路線
として、また、産業、観光の振興、
地域開発の促進を図るうえでも大
きな役割を果たすものと期待され
ています。

起工式では、中内知事や永井日
本鉄道建設公団総裁、施工業者代
表の三人がくわ入れを行つて、工
事の無事を祈願しました。

また、起工式の後、市民体育館
に場所を移して祝賀会も行われ、
関係者約三百人が起工を祝いまし
た。